の歳月が過ぎていた。思えば長い年月だった。白虎隊をはずされた少年健次郎は、今や最新の科学を学ぶ、立派な青年科学者に成長した。強い意志と、あくまでも自分の目的を達成しようとする実行力は、少年時代に日新館で学んだ、『ならぬことはならぬ』の精神がつくり上げたものだったにちがいない。

おわりに

アメリカから帰った翌年、健次郎は、東京開成学校で若者の教育にあたることになった。そして、明治二十一年（一八八八）日本ではじめて理学博士の称号をうけた。三十五歳のときである。

生徒への教育は、熱をおび、力があふれていた。また、時間を正確に守ることについては、当時有名であったし、声が大きく、背が高くやせていて、その